

# 採

五年 11  
筆順 採 採 採  
オン サイ  
クン と 11 へる

成り立ち



「手」の意味を表した「采」と「木」とで、「木の實を取る」という意味を表した「采」と「木」とを組み合わせた字です。

すでに「採」が、「物を取る」意味の字ですが、菜や彩などの字とはっきり区別がつくように、「采」を加えたものです。「燃(年795)」や「暮(年992)」などと同じ仕組みです。

「取る」と同じく「とる」と読みますが、「採」は「つみとる」「選びとる」「とりいれる」というばあいに使われています。

使い方

▽山へきのこ採りに行きましたが、少し採れただけで落ちていた栗を拾って帰りました。

▽わたしはきのう病院で血を採られました。健康診断のための採血だそうです。

熟語例

▽採取(採も取も「とる」こと。例女の人が水にもぐっています。真珠を採取するためです。)

▽採集(採り集めること。例昆虫採集に行き、かぶと虫を採って来ました。)

▽採択(採は選択の採で「選ぶ」こと。いくつかの中から「選び採る」こと。例一長一短があつて教科書の採択はむずかしい。)

▽採用(採つて用いること。良い人や良い意見を選び採つて、それを用いることを言います。)

▽採血(血液を採ること。)

▽採光(光を取り入れること。光採り。部屋の中に光を採り入れることです。)

▽採決(会議で、議案の賛否を採つて決めること。例採決の結果、原案通り実施することに決まりました。)

使い方

▽池の水際(かえるが何びきも、びよんびよんととんでいました。)

▽ぼくのクラスには、絵が際立つて上手な人がいます。

▽勝ちしましたが、それは実に際どい勝ちでした。

熟語例

▽水際(水と陸と交わる所。また、水に一番近い所という意味。また、陸地の果て。)

▽際立つ(さかいはつきりしているという意味で、目立つこと。)

▽際どい(どちらに属するか、さかいはつきりしない意味で、「どちらとも言いがたい」こと。)

▽際限(際も限も「果て」「限り」。きり。例際限もなく使っていたら、たちまち尽きてしまう。)

▽交際(人と人との「交わり」「つきあい」。例あの人とは長い交際があつて、何から何までよく知り合った仲間です。)

▽国際(国と国との交わり。例現代ほど国際関係が大切な時代はありません。)

# 際

五年 14  
筆順 際 際 際  
オン サイ  
クン きわ

成り立ち



人が神と「交わる」のは「お祭」の時だけです。

「交わる」意味の「祭」と、崖の意味の「厶」とを組み合わせて作った字です。

「崖と崖とが交わる所」「つまり「さかいめ」を表した字です。例水際。

「さかい」は「果て」ですから、「果て」という意味にも使います。例際限。

「さかい」は、相手の一番近い所ですから、「すぐそば」の意味にも使います。例壁際。

「さかいめの時」ということから「ちようどその時」という意味にも使います。

また、「交わる」という意味にも使います。例交際、国際。